



JAぎふと取組む協同組合間連携について ～copeぎふからみたJAぎふとの連携の可能性～

生活協同組合copeぎふ
事業改革推進部 渡辺 憲市



生活協同組合コープぎふ 理念

「笑顔あふれる協同のくらし」

わたしたちの願いは、すべての人たちの幸せです。一人ひとりが地域社会の一員として大切にされ、イキイキと心豊かに暮らせ、笑顔あふれる協同のくらしの実現をめざします。そのために、生協は人と人の架け橋となり、地域社会におけるくらしの安心のよりどころになります。わたしたちが暮らす岐阜県の豊かな自然や歴史、伝統文化を大切にし、地域の諸団体とのネットワークを広げ、くらしやすい地域づくりを一緒になってすすめます。

組合員の知恵と力で事業や活動を活発にし、お互いに助け合い、分かち合う協同のよさを広めます。そして、地域の人々のくらしに役立ち、生涯を通じて利用できる安心・信頼の生協となります。



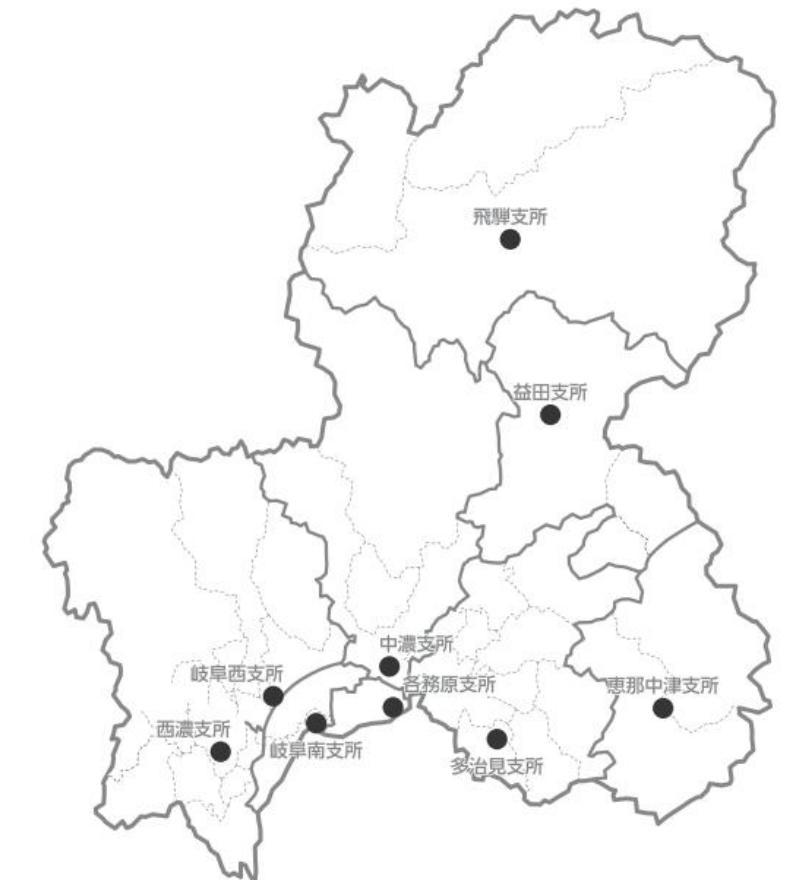
組合員は、「自分(家族)のくらしを良くするため」に協同組合に加入していただいています。





生活協同組合コープぎふ プロフィール

設立	1999年3月21日（岐阜地区市民生協・岐阜消費生協・飛騨生協の3生協の合併による）
出資金	49億3,123万円（2024.3.20現在）
組合員数	258,628人（2024.3.20現在）
総事業高	292億6,970万円（2023年度）
事業地域	岐阜県全域
事業内容	宅配事業、店舗事業、共済・保険事業、介護事業、住宅事業、葬祭事業、サービス事業
施設	宅配事業所（9） 店舗（6） 本部事務所 福祉事業所（5）
職員数	正規職員 410名
	定時職員（パート・アルバイト・シニア職員）766名
	合計 1,176名（2024.3.20現在）



生活協同組合コープぎふの理念である「笑顔あふれる協同のくらし」を基本イメージとして構成されています。岐阜県の形をモチーフに、上部の円形は飛騨、下部の流線型は美濃をシルエット化しています。オレンジ色は、光り輝く太陽…「温かさ」で、安心・平和・福祉・健康を表します。緑色は、永続を象徴する松…「やさしさ」で、安全・生活・環境・文化を表現しています。





取り組みがすすんだ2つの転機

1. 組織のトップの理解

2024年2月「豊かでくらしやすい地域社会づくり」包括連携協定の締結から、トップ同士で意見交流を行い、それぞれの組織内へメッセージを発信つづけられました。



2. 担当窓口の明確化

・1つのミッションをすすめながら、互いの組織課題・地域課題の共有から新たな取り組みが生まれました。

多い時は週4日お会いすることも…笑





事業改革推進部 2025年度方針(抜粋)

1. コープぎふの主幹事業である宅配事業の収益性を改善し、安定した収益を生み出し続けられるようにします。
2. 地域で事業や活動を行っている皆さんとの連携を強め、**地域の困りごとの解決・地域コミュニティの創出**に向けた取り組みをすすめます。
(1)JAと一緒に、地域の困りごとの課題解決・地域コミュニティ創出について、具体化をはかります。
 - ・JAぎふとは、地消地産、地元農業の活性化、食と農の地域内循環づくりなどを大切にし、住み慣れた地域でいつまでも住み続けられる持続可能な地域づくりを目的とした弁当・惣菜工場設立の検討をすすめます。
 - ・県下JAグループと連携強化し、協同組合の連帯の力で地域課題解決に取り組みます。
3. 宅配事業の改善・改革をすすめ、未来につながる持続可能な事業を目指します。



ぷらざ・支店でのグループ結成①

【経過】※copeぎふの課題

・copeぎふの宅配事業は、宅配(60%)・グループ(25%)・ステーション(15%)の3つで構成。くらしの変化により、**グループの利用が低下。** ※宅配の週利用約86,000名
⇒2025年度copeぎふ全体方針では、グループで利用することの価値や喜び、地域のつながりや交流、コミュニティづくりを大切に、生協らしい「つながり」「たすけあい」「豊かな関わり」を強化することをcopeぎふとしてすすめていくことを確認していました。

【目的】

- ①「ぷらざ」「支店」での班利用を通じ、地域の利便性向上、コミュニティの活性化、くらしの困りごと解決などを目指します。協同組合どうしでの交流なども行い、互いの組織理解を深めていきます。※班での利用は、目的実現の1つのきっかけと位置づけています。
- ②2025年国際協同組合年、JAぎふ・copeぎふの連携、協同組合の価値を内外に周知。





ぷらざ・支店でのグループ結成②



「1ヶ月前に妻が亡くなり、食事に困っていた。息子にも心配かけたくない。これなら俺一人でもできそうだ。ここなら歩いてこれるし、助かる。」80代男性

「友達がどんどん亡くなっていてさみしい。足も悪くなってお気に入りの喫茶店も階段があるので行けない。ここの中間と会って話すのが楽しみ。」90代女性





ぷらざ・支店でのグループ結成③



班名	合計	人数	1回平均
J A ぎふ川島支店（職員）	30311	4	2525
J A ぎふ川島支店（女性部会）	30488	3	2540
J A ぎふ川島支店（A）	79838	7	6653
J A プラザ常磐	491057	7	40921
J A プラザ大桜	346781	12	28898
ふれあいプラザ日野	59786	4	4982

【効果】

- ・来店者増加により、新たな顧客の創造
- ・協同組合間での合同企画により、地域への社会貢献
- ・JAぎふとコープぎふによる協同組合間連携の認知向上
- ・付加価値により、来店者の利便性向上

【今後】

1. 利用エリアの段階的拡大
2. セミナーやイベントの共同開催
3. 組合員加入促進と共通組合員化の推進





組合員活動①

【経過】※copeぎふの課題

・組合員活動の参加の停滞

以前は各地区のエリア委員(JAぎふで言う女性部)が地域の組合員活動を活発に行っていましたが、年々自主自発的な活動が少なくなっていました。

- ・組合員参加もそうだが、活動も単発で「持続的なつながりづくりが出来ていない」
- ・活動の見える化が不十分、組合員や地域に取組や成果が十分伝わっていない

【目的】

- ・JA利用者だけでなく地域住民が気軽に立ち寄れる場をつくる
- ・多世代・多様な人々の交流を支える地域ハブとして機能させる
- ・高齢者や若い世代との接点づくりを強化する
- ・地域の食と農をつなぐ拠点づくり(地消地産の促進)
- ・地域農家と地域消費者の橋渡し(協同組合間協同)
- ・安全・安心で地元産の農産物を提供JA・生協双方がもつ事業効果向上





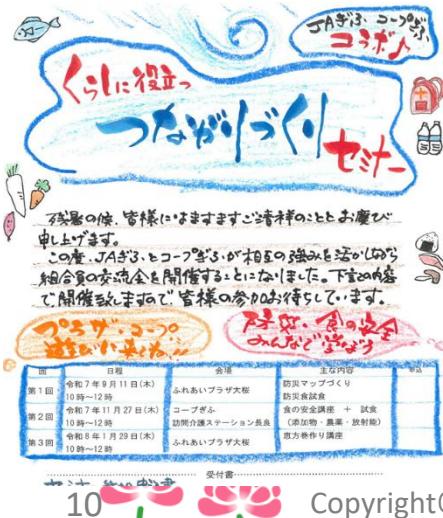
組合員活動② くらしに役立つながりづくり講座

【プラザを活用した地域コミュニティづくりの活性化】

- ・地域のみんなに役立つ情報と交流の場づくり
- ・生協が得意とする食育・エシカル消費・地域食文化の活動と組み合わせやすい
- ・JAぎふ産農産物を使った企画ができ、地消地産の推進にもつながる
- ・安全・安心の食をテーマに、JA×生協の強みが相互に発揮される

【JAぎふふれあいプラザ大桜】

①防災講座(18名)



②食の安全講座(15名)



③キャラクター恵方巻づくり(19名)





組合員活動③ プラザ常盤

①【健康講座「健康で長生きするための秘訣をしろう！」】 12名

砂糖や食塩、クエン酸などの五味を溶かした水を用いた味覚テストを実施、酸味は微量でも感じやすいなど、味覚の個人差を体験した。第二部では味噌汁の塩分測定を行い、具材量やだしの使い方によって塩分の感じ方が変わることを確認した。



②【食文化学び交流促進 JAぎふとcopeぎふがキムチ作り体験】 13名

参加者は、材料の多さや下準備の大切さを学びながら作業を進め、「キムチにこれほど多くの素材と手間がかかっていることに驚いた」「普段は購入するものだと思っていたが、自分で作ると面白い」「2~3日後の味の変化が楽しみ」といった声が聞かれた。





組合員活動④ 生産者の想いにふれながら・・

【岐阜西支所】 いちごのハナシ（30名）
 イチゴが規格外品を含め多様な形状や
 サイズで収穫され、規格外品にも利用価値
 があることを知つてもらうとともに、「味わう・
 学ぶ」体験を通じて岐阜いちごの魅力を再
 確認し、両組合員間で共有することを目的
 に行われた。



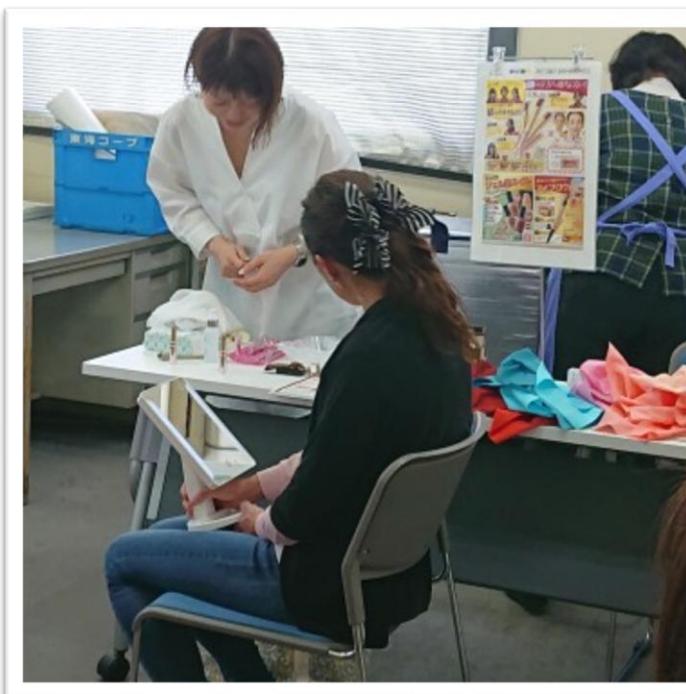
【年間活動】 42件 ※1月末時点

No.	開催日	店舗	テーマ	内容
1	R6.08.01	本部	広報連携	連携取り組み媒体活用
2	R6.08.23	本部	農産物販売	農産物直接取引開始
6	R6.10.01	川島支店	組合員交流	女性部×エリア委員交流
3	R6.11.01	プラザ常盤	常盤収穫祭	コーナーブース設置
4	R6.11.01	本部	農産物販売	「おんさい朝市出張コーナー」開設
5	R6.12.13	川島支店	拠点活動	コーナープース出店
6	R7.01.01	本部	人事交流	「ふれあいねっと」新春対談掲載
7	R7.02.01	川島支店	拠点活動	コーナー「班」開始
8	R7.04.01	本部	事業マッチング	コーナー「虹の会」加入
9	R7.04.08	本部	人事交流	新採用職員合同研修
10	R7.04.15	本部	人事・農家交流	新採用職員合同農業実習（年間）
11	R7.05.01	本部	広報連携	「食と農の祭典」PR
12	R7.05.01	プラザ大桜	拠点活動	コーナー「班」開始
13	R7.05.08	本部	農家交流	イチゴ農家視察・交流
14	R7.05.14	後見センター	後見×介護連携	合同勉強会
15	R7.05.17	本部	地消地産イベント	「食と農の祭典」コーナーブース出店
16	R7.06.01	プラザ常盤	拠点活動	コーナー「班」開始
17	R7.06.01	山県ばすけっと	広報連携	山県ばすけっとPRチラシ配布
18	R7.06.15	本部	地消地産イベント	「食と農の祭典」コーナーブース出店
19	R7.06.22	本部	商品開発	枝豆からし豆腐開発・販売
20	R7.07.01	本部	広報連携	JAぎふイチゴPR
21	R7.07.05	山県ばすけっと	合同イベント	七夕フェア、コーナーキッチン出店
22	R7.08.09	西部コミュニセ	農家交流	岐阜えだまめ親子料理教室
23	R7.08.12	本部	連携スタート	包括連携キックオフ
24	R7.09.11	プラザ大桜	組合員交流	防災講座、手作り防災グッズ等
25	R7.09.19	後見センター	後見×介護連携	合同勉強会
26	R7.10.01	本部	広報連携	コーナー「タノモット」PR
27	R7.10.03	本部	人事交流	コーナー歩行ラリー
28	R7.11.01	本部	農産物販売	コーナー「かわく JAぎふロ」マーク表示
29	R7.11.08	コーナー見店	農産物販売	「おんさい朝市コーナー」1周年祭
30	R7.10.20	プラザ日野	拠点活動	コーナー「班」開始
31	R7.11.19	本部	協同組合研修	協同組合連携会議
32	R7.11.27	プラザ大桜	組合員交流	食品安全講座、試食
33	R7.11.28	プラザ日野	組合員交流	防災講座、手作り防災グッズ等
34	R7.11.29	プラザ常盤	常盤収穫祭	コーナーキッチン出店
35	R7.12.01	各店舗	広報連携	国際協同組合年事業認定
36	R7.12.05	プラザ方県	組合員交流	防災講座、手作り防災グッズ等
37	R7.12.05	川島支店	組合員交流	クリスマス料理づくり
38	R7.12.07	プラザ大桜	大桜収穫祭	コーナーキッチン出店
39	R7.12.19	プラザ日野	組合員交流	大掃除講座
40	R8.01.08	プラザ日野	組合員交流	キャラクター恵方巻教室
41	R8.01.28	プラザ常盤	組合員交流	食品安全講座、試食
42	R8.01.29	プラザ大桜	組合員交流	恵方巻作り講座





JA各務ステーション①



【経過】※copeぎふの課題

- ・2026年新本部移転に伴い、各務原支所ステーションの移転先を調査していました。
- ・ステーションは生協商品の受け取り場だけでなく、地域の方が集まる場としても大切な位置づけとなっており、現本部周辺の施設を探しておりました。

【目的】

ステーション利用者の利便性向上だけでなく、JAぎふとの協同組合間連携強化により、地域コミュニティ創出・地域活性化を目指し、地域にとって価値あるステーションを目指す。



JA各務ステーション②



- ・JA各務支店の支店長と地域課題や、支店の課題、コープぎふの課題を共有しました。
- ・コープぎふの2つのステーションの中間にある立地もあり、地域住民のコミュニティの場づくり、地域活性化などを目的として建設をすすめることとなりました。





JA各務ステーション③



※看板に、JAぎふとコープぎふ
のロゴを入れ、協業をアピール

- ・3月16日(月)オープン！コープぎふの組合員へ呼びかけを行い、現在400名超の方が利用を希望しています。
- ・合同イベントの企画、互いのサービスの提供などを行い、地域貢献につなげていきます。





JJAひだ: 県下JAとも連携を強化しています

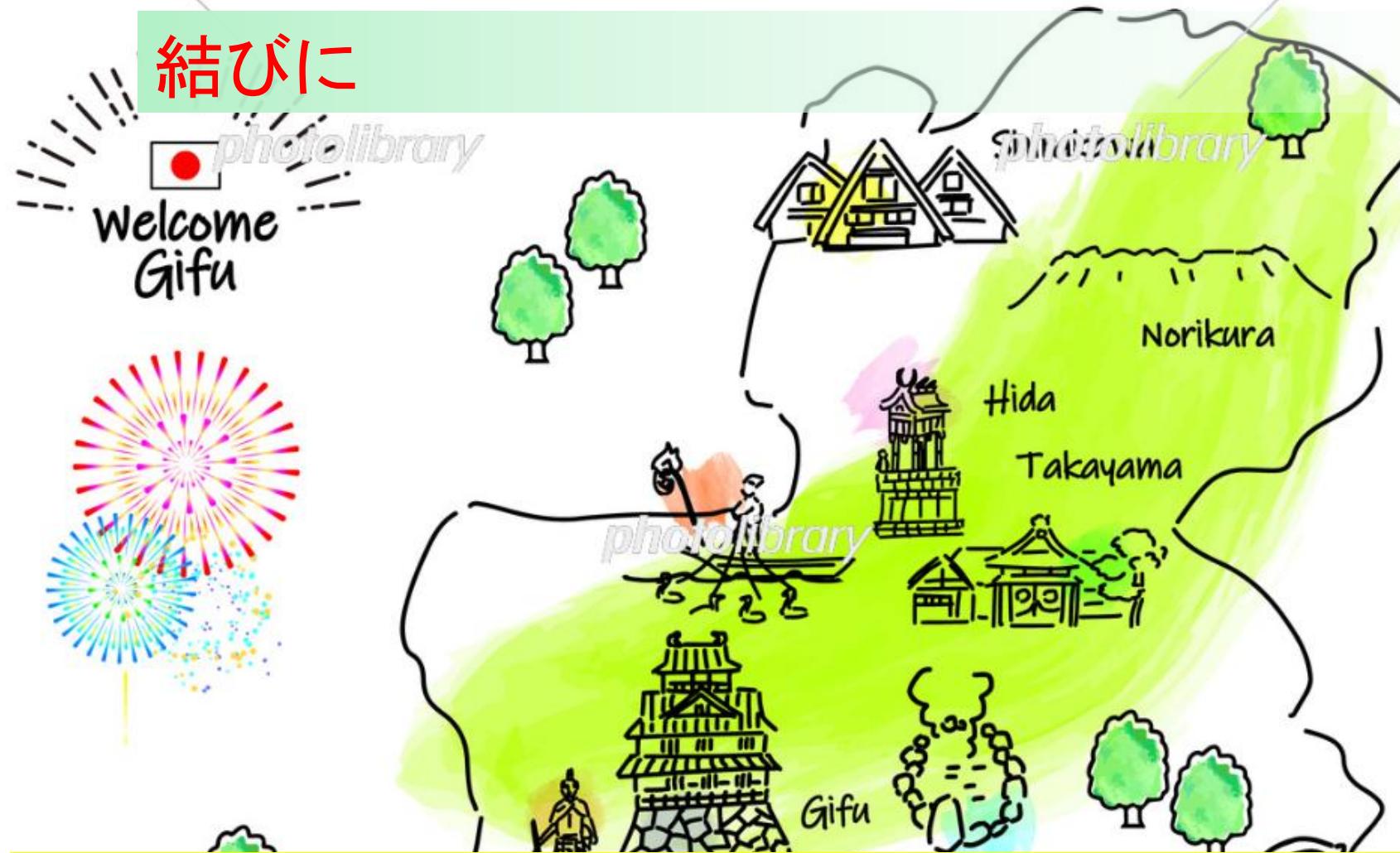


2025年2月末の10店舗閉店対応
コープぎふの取組み
・閉店店舗での宅配事業の紹介



- ・2025年7月大地の恵みサマーフェスティバル
(NPO飛騨高山わらべうたの会合同企画)

結びに



JAぎふはじめ、県下のJAの仲間と力をあわせ、小さな循環をつくることが『地域』『岐阜県』『日本』そして世界の課題解決の一助になることを確信し、協同組合間連携をすすめてまいります。





ご清聴 ありがとうございました！